へ13
2483
5

特
へ
遠
2483
5

黒糸井筒紅葉打敷

昭和文庫

上編第一冊

黒井筒

おげぶーめうた

つうくてべてよのか
くれべあんのなるとよ
おももかー
月のあけがのこのむ
さるあふ夜ワをもとぬ
かしくさを
今うるとあるあのづつ
うさとおりんべ

信田左衛門政氏家士
鹿嶋徳兵衛

右元禄年間の印本
松の葉に見ゆ

京五条坂
井筒屋の
板戸

自序

累女得脱の本傳は予が捜奇録に記し置しが更にもいとゞ古き繪草紙よ累解脱打敷といふわらこい律打次兵衛がはなしを傳奇と寛延三年戯曲に翻案せるとゝ絵草紙よ縮綴せるかめを今此稗史へ彼解脱の打敷と添へ紅葉乃錦立田川の流れをさらぐり狭き絹川ゐせに入て柳の黒髪を乱しものゞむ声のめをさらだて蛇竜の形と其侭ゐ悪竜の姿とあらはせし昔語をも合せく因果応報の理をいきまゝへべき露なりのよとがさとかされ井筒と名ぢるへゐ房徳兵衛が事を附會せるゆゑなり此草紙四歳をうさうよせわゝかゝめ其要路と考へおきぬれども書はぐるべきいとゝ多くて打されたゝるとゝろみ取出し補綴して耕書堂に授あるなり

文化五年戊辰四月稿成

仝　六年巳巳正月発兌

醒醒齋

山東京傳誌

南無阿弥陀佛
○羽生村累乃怨霊
与右衛門堰
於岸を

抱忠七尺千金重
遂志百年一羽軽
○絹川
与右衛門
よゑもん
ゑんちが心に
やおん
ゑひろさう
○助坊主顕格霊魂

いづち判官

尓誰人人誰
尓出乎尓者
反乎尓

鰐の蛮名カイマン又コロウコジルともいふをゞて南海の内に産を海鳥にひそまり陸地を走る其形畧のごとし

よく婦人を魅して犯さまり懐胎せしことあり

二河白道の畧

おきしをひさるひてちづゝのくいをもしむ

鰐魚圖

蛮名カイマン
又云コロウコジル

人間一疋ハ鰐多和名抄ニ云鰐ハ蜥蜴ゆて水に潜りて人を呑ものゝ即うゝむ三才畧會云鰐魚四足電ゆて尾あり利歯わり虎およひ竜水を渡るハ鰐尾をもつて己れをうつ其猛ことを皆中に断とゝ大なるハ二丈ありこゝ名義集沙殺子魚と翻せるなり

古歌に

「世のなかハ鰐一口も物そうしゝゆめよさめよとおりつをりぞ」

縛魄鬼

仏説十王経曰。一切衆生臨命終時。閻魔法王。遣閻魔宰

三名奪魂鬼。

二名奪精鬼。三名縛魄鬼。即縛三竜至門開

樹下樹有荊棘。宛如鋒刃

累ゞ母子の

つゝを紙にうけて

呵責あり

惡報

奪魂鬼

十王経頌曰

汝去過死山漸近閻魔王

山路无衣食飢寒苦何忍

全偈曰

二七亡人渡奈河千群万隊渉江波

引路牛頭肩挾棒催行馬頭腰拏叉

下畧

白指子のビこゞ

養父正直

庄内

成仏

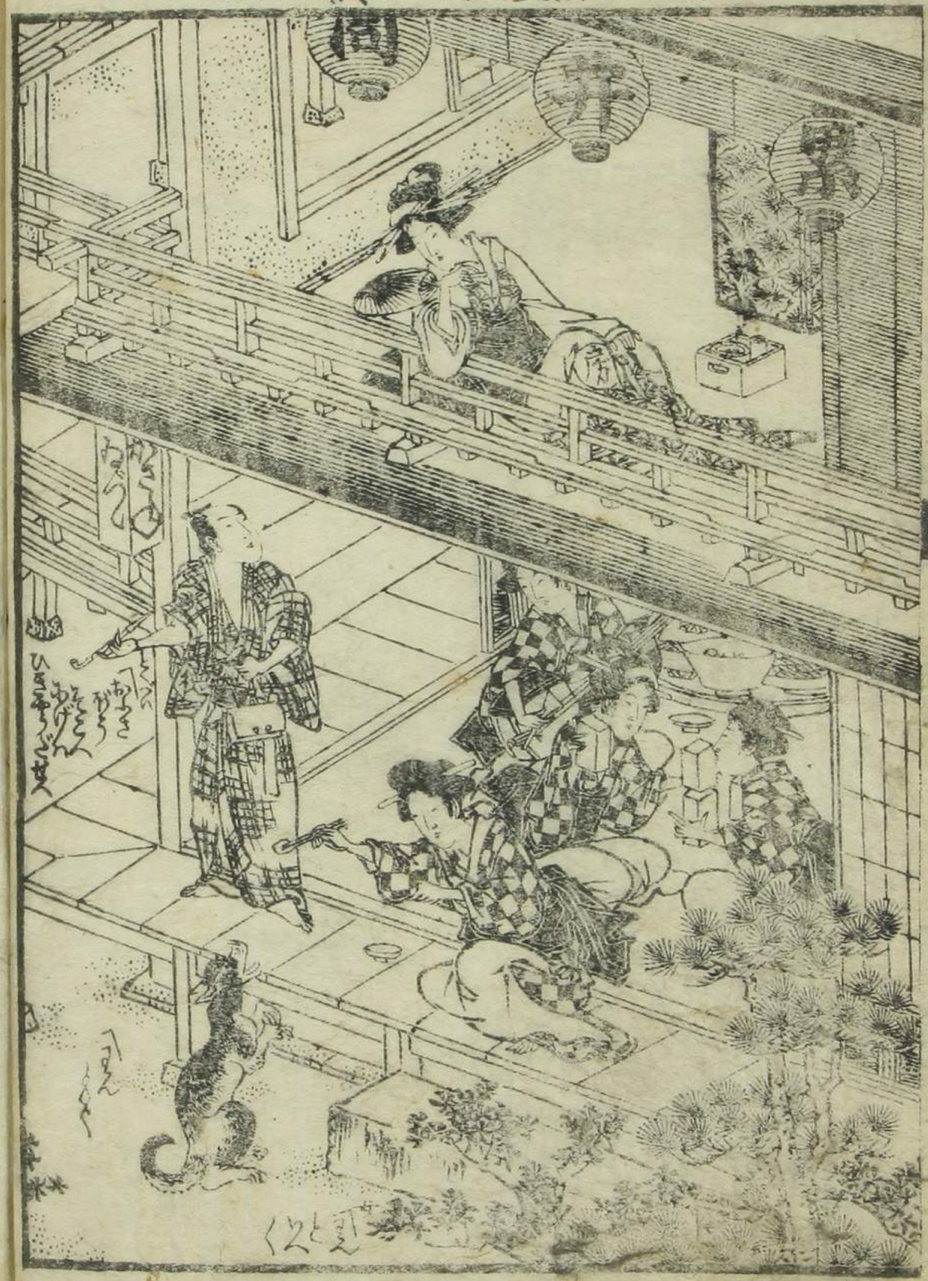
善報

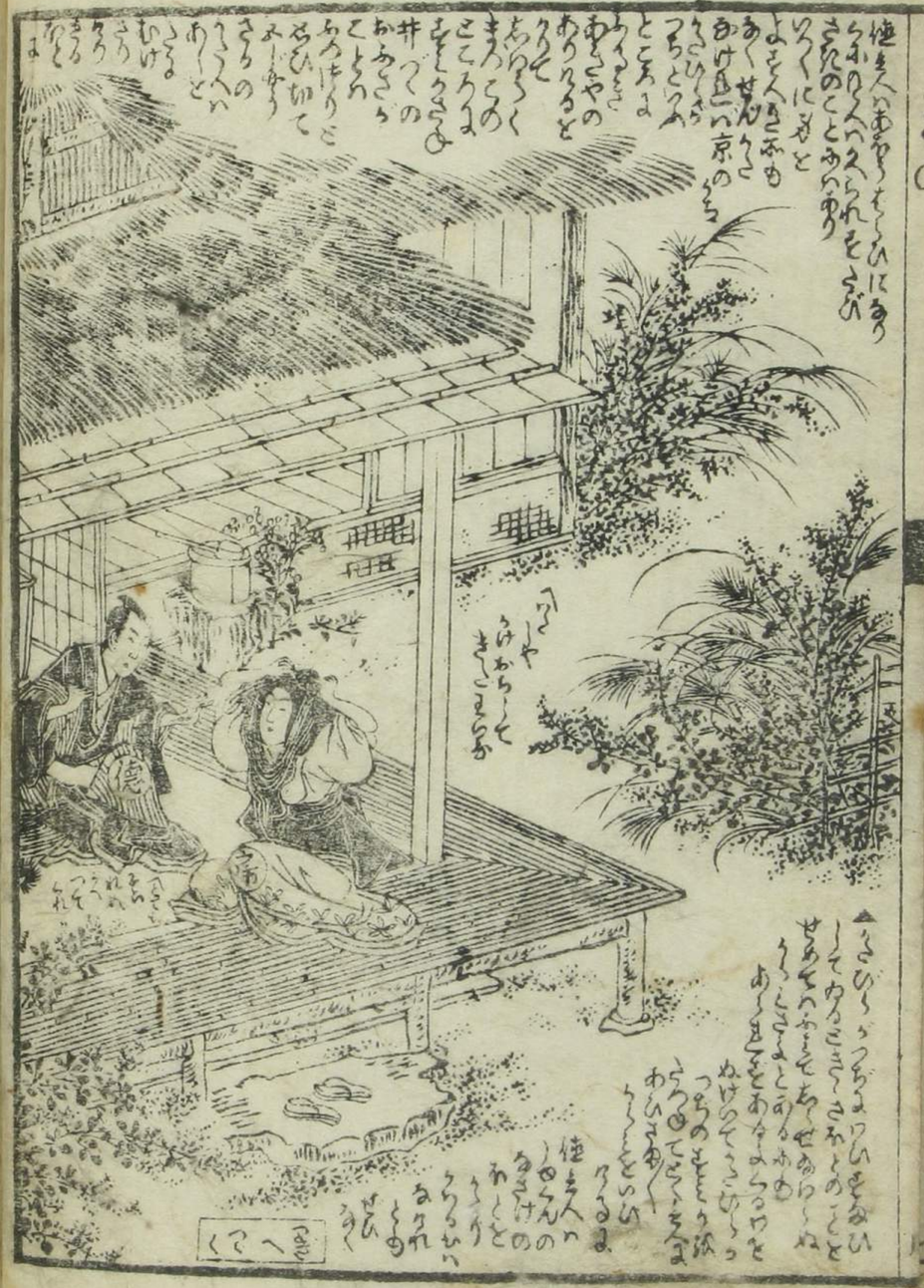
累劫成仏得脱図

右曽良之句奥之細道ニ見ユ

いるのむしひびし山美濃の時代ちろくのころとやあつ年のふゆづりえのさとに信田さぶりん
政氏といふんぞおいしける京初にのがりうえんのおぢのたびやうさにあて三ねんつくむろ町のごぜよ
をつれあつ又三ねんがあのどのふてありてきうそくすることとくばりまきうちのかしんよかーま
ろいざえりんとのふむかのちうちんあてその子にかーね徒えんといへりのありいるざぶくれん
ゆそつあもあくたびひまれあるびあんありとろづのことにしてくむきてなるりのあれば政氏の
分ふうあひちぶいにつちちゆーてつえろるがちあるとんちさ氏にちさびひぶいさえうのあぶ
ふと五じゆうざらのるるえにかるひるさあ井でる分のおふさといふあそびあれられとあるるが
おふさも徒えんがふるるうあるちぶさにちくくめぶまうひてあのくさ徒さあるとあるさ
たぶひにまことをつしてあんまうのちぶうあさうくさりしかぶるいさて信田のさうんちう
ろうないのりのぶもにきえんとうげぶとにちくえんうあーさおこるひをそーつまっかぶの
りうちうとあるんのちろーめさぶるりつよりあるる徒えれぶあもるれをひのさーたまりかりよ
きうれふりしてあたまりあるりれくがえのうつよいさうあるうえんがぶるーんとちるむこちうりうちぐさ
たちぶどちふつしうんあーあかどうあたちくえんがるろーんとちるむこちうりうちぐさ
ういさすることおのぶるーまき氏のえにいりりるるぶまきき氏大ふりうたまひりうそのりう
ある徒えんがえるちるぶちぶさしつけてあえこひいきあれあれとたぶうんとおりひい
たまひーがえるひえーたまひるるれあれいつまりをいるぶるるえるりんちりうちる
ひあちれるめのあれば父にめんじてかれが一銘をたとけえせいとうもるれぬうのまちさ
あるんとある日人をさるぶけ徒えんをぶちくりーせそひちるるるんぢたいぜのあるる
ぶいきちうのつるあのめのぶーにあるまぶれゆうちちるとんてかうちちるとあるとこと
ぶんぶぶうだんのあるまひありいぶるくるのふさあるふぶゆうせきのものありとたし
むろまちちのぶちるいきえんぶいはるいのかきえんありのちのこちるめのたるかせちふくとも
ゆくぶさちぶれぶるるそのあうが父ちぶぶるとりひちうぎといひたこうの
りのあるぶちにめんじいちりのとたちるひてうんぶぶるするありりーあんぢふせちふくるぶとえつぐく

京の都の五条坂の黒ぬり井づつの屋体





南無
徳
方

巻之三

○ちりうの助がつまと千手のまへとしひとぐ
ひまやのびんあらいらづちえんまうまん
うまてせんものまへめんかの心おろく信田の
ぬにせもやとたくをけすびちまくの女のと
兵衛とうりてさもに上京をこうつまりのものされ
まんろ祇つひてちまくの女つをにおとさんとも
いさひの上京をもしるるゆへねいしんどもこと
まんをんもあのびてりらしに上京しのとろ
さしあめうろくぬんとかとあいせうちをとう
きいまろ。○さるかとにちまくの女いをうち
よしまさたへ目をえしてかくくのねろひあの
のあのざかにのひやう衣尼おまあんのすくめ
さびやうさにわしてとうをうをふらやしめ
ふをあうるこれよかしねみうざりんあるんの
るかをとしもちひたまうどかにのひやう衣
わまろを人目とわりをとかさけられちくにう
うをれあいもんのかうらうまちくをうちあう
くいろふしてうらんとをといさめてあさうり
きぬ川与衣りんとりあふしのらろにんありろ
あやとふさりをにろるがおさしいたをひまれ
たろう衣尼ゆえ大平祇よりとあうまいふちか
いとあをとをむすめおきしいらやを祇とうを
よ衣りんがかう春くのおりろをとあに。かき
わらおかうりふ衣りんがををろちろ尼あるう
ありこれもまいおちい六乗りくへおるうちい
おさしいにさんがしよ衣りんう同衣まのひさ
たがくへありをとかしねみうをりんいもりん
ぐをんうのためをもをまれどをひとりあ

○さて信田のさえもんまさうぢい三ねんの
ぞい京をそを出改ぞういとゑを
たまろうふかへんかへるをうろうふて
ひやうをづきてをゆをうり
つまをうい百ゆくをつにられども
その衣しあくつひふを江人の
ろにいりるるゆをいろうちうの
みけきおろをさをうをを
をうりくをいとゑをあつをを
もにこりりるが日ろたちて
ゆしあくせりをのちをうの女改ま
かをくのねうひをゆひよくあいまを
ちをうの女はしまさ公へめをくのたあ
上京のをたくめる○さてまをさうぢの
をのをつにひをちのうをとをいうの
のちのつゆゆをちをうの女い
せんをいのををうりるが
ひをらのををしゆをうをく
あくいををををふをんゆを
つををうをををうをのをを
ひををうのををのをををををうをうの
ををのををををををををうをうをの
ををうをををををををををををををを
をををををををををををををををを

▲かして、ワダをうをうをりをるをうをし
ををてををうをの女ををりをのひをいをうを
をんををんををかをくをををををををを
をををりをををををりををををををを
をををんををりをんをのををををををを
をををををををををををををををを
かをのひをう衣にををををををを
ををををうのかをうを、
をををををををををををををを
をををををををををををををを

「とくとをををんいをてををををまををう
「信田のさえもんの
ををををうをををの女が上京を
をををををををををををををを
をををををををををををををを
「をををををんををん
「をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを

太平記講釈

まんのうでさ

巻之四

あで
しこ
女へ
めん
西内
○おさー

嘉

部
行

嘉群
宇多

部

豊國画

山東京傳作

上へん

終

巻之五

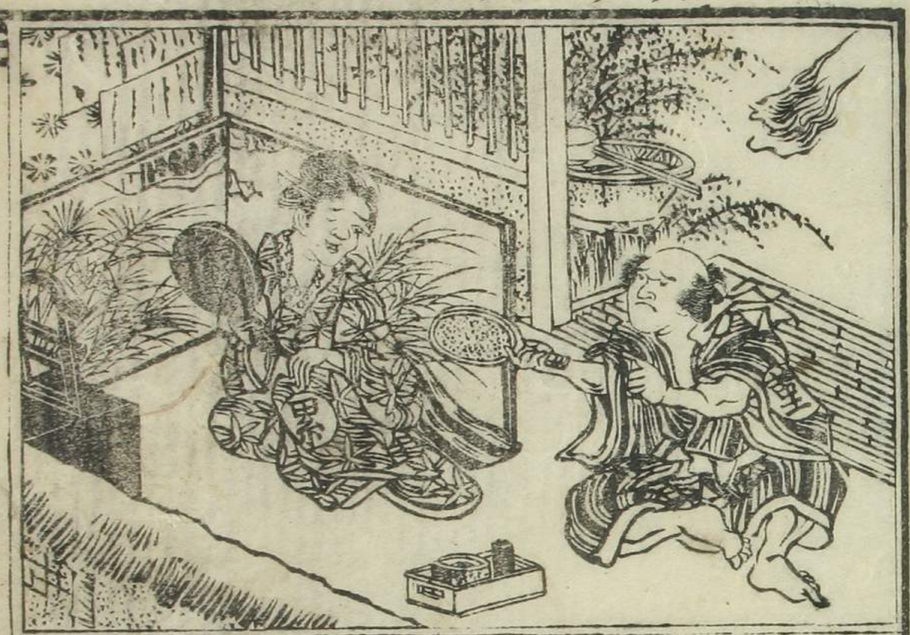
話說指南

地蔵尊

和

十
五

行
かに
浮子



まくのゝ正内ぶとところのワッぎとを
かぎ〻ふひあいさのあぶなさのあやうきこうしもあのんぶ
つこでこうひにあくこと又てびこてんでーこれらけて
きこくうえこうとひめをもあでしこ〻やこいのけこほどう
こうねいあこことひめをもあでしこ〻やこいのけこほどう
こうしまちくきこくうぬにもんワこーふこれよこと
こへい正内こうくこうりもつこうこあろこうほこ
きこうくひあるかしくしあすてこひめのてここうこ
いこんかこうこうこあやこうーのこきこーここきこあこうこる
目のまくこひこうこあのふこころこうこもこうこいきこ
こうこんにひあのふこころこうこもこうこいきこ
こうこーこーのこころこうこうこいこれここうこうこ
こうこのここここうこうこうこいこここここここ
こんここうこのこうこーこにこうこのこうこーこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこ
こうこうこうこ
こうこ

巻之八

上人

地蔵菩薩

筆耕徳瓶